

# 張翼負荷

自由の翼を張り、そこに生じる責任の重みは背負おうではないか

令和5年度 8月号

中津川市立神坂中学校  
学校だより

## 夏休みまでの生活を振り返って

校長 吉田 知己

5月、全校生徒38名全員で富士見台高原に赴き、68年に落雷事故で命を亡くされた4名の御霊に対し慰霊を行いました。私は「慰霊の言葉」のなかで、当時、生徒代表が読み上げた弔辞を紹介しました。『~この思いもよらぬ大惨事により、かけがえのない子供さんを失われた遺族の方々のことを思うと、私たちはお慰め申し上げる言葉を知りません。ただ涙ばかりです。後に残った200人の友輩は、一致団結してより良い校風の樹立に邁進いたします。これが私たちに許されたただ一つの、4名の御霊を慰める道と信じます。』

当時のできごとを直接知る生徒、職員はいません。しかし、神坂中学校の名を受け継いだ私たちがすべきことは、“一致団結してより良い校風の樹立に邁進する”ことに間違いありません。

より良い校風とは？ 様々なことが考えられますが、その一つが「誰もが安心して過ごせる神坂中学校であること」です。

6月に行われた「命を守る訓練（不審者対応）」のときに、全校生徒諸君にお願いをしました。「中学校生活は楽なことばかりではないが、全員が楽しい、安心できると言える神坂中学校にするために、小さくてもよいので1人1人の力を貸して欲しい」と。

「神坂中学校はどんな学校ですか？」とよく問われます。生徒の皆さんは、この問いになんと答えますか？ 「全校生徒38人です」「中津川市の中で（岐阜県内で）、いちばん東にある学校です」「小学校と中学校の校舎がつながっています」「部活動は2つしかありません（実際は男子はバスケットボール部、女子は卓球部の一択なのだが）」…。たしかにこれらは神坂中学校のことを言い当てています。でも、期待される答えではありませんね。「どんな学校ですか？」の問いは、「生徒は何を誇りにしていますか？、何を大切にしていますか？、生徒は学校生活をどう感じていますか？」という、実態のない“校風”について問うているからです。

『「全員が楽しい、安心して過ごせる学校です」と、全員が自信をもって言える神坂中学校を、全校生徒諸君の力で創り上げなければならない。』私がこの4か月で最も強く実感したことです。



6月 24時間テレビ「車いすバスケットボール体験会」

21日から始まる夏休み中に、ぜひ見つけてもらいたいことを最後に記します。それは「自分なりの学び方」です。「夏休みくらい、思い切って遊びたい！」という気持ちは十分理解できます。普段できないことを存分に楽しんでください。それと同時に、自分の都合に合わせて学習に取り組める5週間でもありません。学習時間も内容も、自分で設定することができます。書いて覚えるのか読んで覚えるのか。まとめるのがよいのか練習問題を解くのがよいのか。学習の仕方は人それぞれですね。効果のない学習に時間を費やすことは得策ではありません。自分にとって効果的な学習方法を、この夏休みに見つけ出しましょう。すでに見つかっている人は、学習面でも夏休みを充実させましょう。

8月末の夏休み明け、前期期末テストとともに職員一同、38人の笑顔に会えることを楽しみにしています。